☆ 子ども会(学習会)だより ☆

MY SKY 第10号 ☆ ☆

マイ スカイ

1996年6月18日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責:吉成正士

じとじとした雨の日が続きますが，そんななか，漫才のような講演会に行くことができました。同和教育の講演会なのですが，本当に笑いの連続で「やっぱり明るくないと！」という感想をもちました。ぜひともみんなにも聴いてもらいたかったです！

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◎「さびしいときは 心のかぜです」(樹心社:原田大助)

縁とは不思議なものです。ちょっと前に知り合った知人が，私が同和教育関係の仕事をしていることを知ると，それ以来いろんなことを聞いてくるようになりました。そして，ある養護学校に通う子どもが作った詩をもとにした，次のような本を探してきて，手渡してくれました。

きもちがいいなあ

気持ちがいいなあ　この青い空　空気がいいんや

空気の色がな　すこーし光っとるで

大ちゃんの耳，目，鼻はとてもいいんです。それとも感性が素晴らしいのでしょうか。「今日の空気は少し青いな」と大ちゃんは言います。宇宙飛行士のガガーリンが，宇宙から地球を見て，「地球は青かった」と言ったのだから，きっと空気もほんの，ほんのわずかだけ青いのでしょうけど，私には毎日の空気の色の違いを見分けることはできません。でも大ちゃんにはそのわずかな違いをうけとめる心があります。それから，一緒に外に出ていると，大ちゃんは「いま鳴いた鳥の声，ラの音に近かったな」と言います。それから，「ほら，春の匂いだよ」とうれしそうに話してくれます。雲がたれこめてきて，「雪の匂いがしてきた」と教えてくれたとたん，空からちらほら雪が降ってきたこともありました。大ちゃんといっしょにいると，私は自然とも，お友だちになれるような気がします。

ところで，「大ちゃんの障害名は何ですか」「大ちゃんの知能指数はどれくらい

なんですか」「大ちゃんの精神年令は何歳ですか」と尋ねられることが，よくあります。私はその度に，とても戸惑ってしまいます。季節の移り変わりにたいして，こんなに細やかな気持ちを持っている大ちゃんを，こんなに人の心をうつ詩を作っている大ちゃんを，「精神薄弱」とか「知能障害をもつ」とか「精神発達遅滞」とかいう言葉でかたづけてしまいたくないなあという気持ちが，私にはするのです。

そしてそれは，大ちゃんひとりではなく，学校の子どもたちがみんなそうだし，その他の誰だって同じことじゃないかと思うのです。私たち大人は，その人の障害名とか知能指数とか精神年令を知っただけで，その人のことをもうすっかりわかってしまった気になることがあります。でもそれって本当におかしなことですよね。

ＩＱが，２０だとか５０だとか８０だとかいうことで，その人のどんなことがわかるというのでしょう。それよりも，魚釣りが好きだとか，犬を飼っていてかわいがっているとか，運動が苦手だとか，素敵な詩を作るとか，その人のことを知る上で，もっと大切なことはたくさんあるのに，そんなことはたいして大事ではないと思っているみたいですよね。それから，精神年令が２才だとか５才だとかいうのも，私はとてもへんだなあと思っています。その人が１０年なり，２０年なり生きてきて，得てきたものがたくさんあるのだし，またそんなことはその数字だけでは到底わからないことですもの。

それと同じように障害名というものも，あまりその人のことを表していないかもしれないなあと思います。精神発達遅滞だとか脳性マヒという言葉だけでは，決してその人が見えてこないですよね。計算が苦手，足が動かしにくい，などという言葉が，魚釣りが好き，という言葉と同じように並んで，その人を知る言葉になったらそれでいいなあと私は思います。

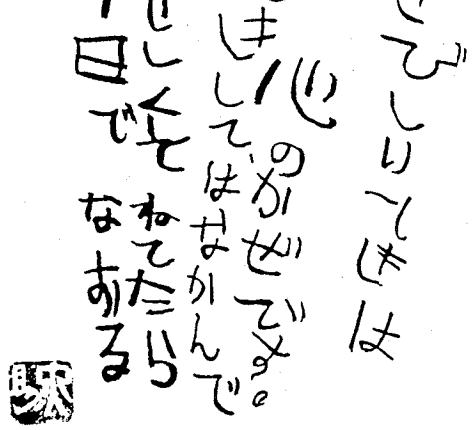
こういうことも，大ちゃんや他のみんなが教えてくれました。

さびしいときは　心のかぜです

さびしいときは　心のかぜです
せきして　はなかんで
やさしくして　ねてたら　一日でなおる

その時，私は元気がありませんでした。私と仲良しの大切な友人が，とてもつらい状況にいてさびしがっているのに，私は何もできずにいました。心配をかけてしま

うから，大ちゃんの前では元気でいようと思うのに，いつか溜め息をついてしまって，「山もっちゃん，どうした？」と大ちゃんに聞かれてしまうのでした。



その時はまだ，大ちゃんと二人で詩を作りはじめた頃で，大ちゃんは遠慮がちに言いました。「さびしいときは心のかぜです」「えっ？」と私が聞きなおすと，少し時間をおいてから，大ちゃんは「せきをして，はなかんで，やさしくしてねてたら，一日でなおる」と言いました。

私はその時の情景をはっきりと覚えています。とてもやさしい目をして，これ以上やさしい顔はできないと思われるくらいににっこり笑って，大丈夫というふうに私にうなずいてくれたのです。

友人にこの詩をすぐに送ると，友人は「今は大変だけど，時間がたったらそのうち心の風邪はなおるよ，と大ちゃんに言われたような気がして，心がとても楽になったの」と，また手紙をくれました。

「大ちゃんの詩はすごいね。大ちゃんの詩はやさしいね。友だちが元気になったよ。友だちのことを心配してくれてありがとう」と大ちゃんに言うと，「山もっちゃん，元気はいいね」と大ちゃんは言いました。その時はわからなかったのですが，大ちゃんはきっと，私が元気をなくしていることを心配していて，それで「友だちが元気になった」とうれしそうに話す私のことを「元気はいいね」と言ったのだと，今わかりました。私，名前だけは教師でも，教えようとか，指導しようとかいう気持ちを持つことが，どんなに思い上がった考えかということが，大ちゃんといるとよくわかります。大ちゃんこそ，大きくて，やさしくて，広い目で私をいつも見ていてくれていたのだと思います。

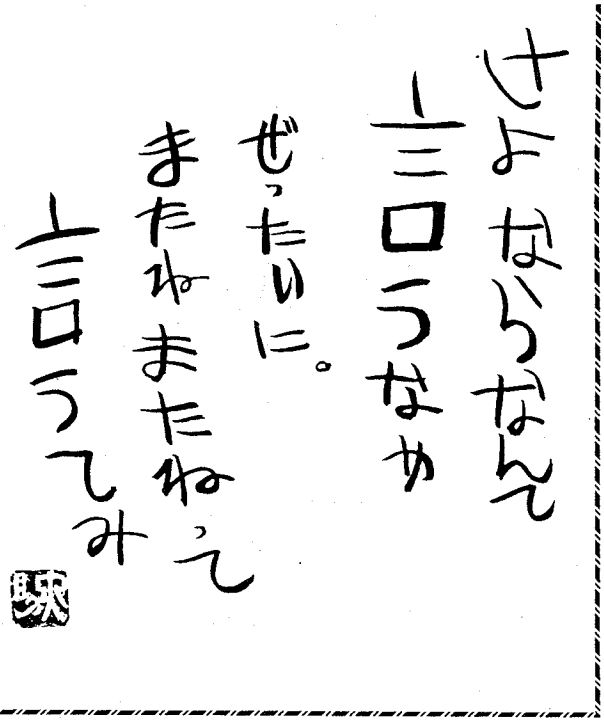
人は，人と人の関係の中でこそ育つのですね。そして，その関係は決して，押しつけだったり，一方的だったり，支配的だったりしてはいけないのですね。それでは気持ちは出せないし，好きという気持ちにも，きっとなれないのではないかと思います。私と大ちゃんがその時，もし一方的だったら，「さびしいときは心のかぜです」とい

う詩は生まれなかったと思います。

それから，大ちゃんは私に「いつもそこで笑っとってみ」と言います。

いつも顔を　かたげて　笑うんやな
　それってかわいくて　やさしいな

これも私にはとてもうれしい詩です。私は自分では顔をかたげて笑うなんて，ちっとも気がつかなかったことです。かわいくてやさしいとほめてもらったからには，やっぱり，いつも笑っていようと思います。



▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◊ これからの日程 ◊◊ ◊

今週の木曜日は，２年生の第２回全体学習ですね。２年Ａ組のみなさん，２年生のみなさん，実(みの)り多い全体学習にしましょう！

また金曜日には，１１日に行われた校内部落問題意見発表会で選ばれた２年生の楠本真(ま)央(お)さんが，板中代表として板野郡大会に出場(藍住中学校)します。ぜひとも胸を張り，堂々と，「私たちの思い」として発表してきてほしいものです。

さて，ここでつい先日届(せんじつとど)けられた一つの生活ノートを載(の)せてみたいと思います。みなさなん読んでみてください。

今日私は一つの決心(けっしん)をしました。それは，友達に「私は部落」って言うことです。私にはすっごい信用(しんよう)できるすっごい頼(たよ)れる友達が一人います。私はその子には，まだそのことを言ってなかったのです。住所は言っているから，わかってるかもしれません。でも自分からは言ってません。今まで言うつもりはありませんでした。でも「こんなんで本当に友達っていえるのか？」って考えるうちに「言ってスッキリしたい」って思って決心しました。

最初その子に電話して普通(ふつう)の世間話(せけんばなし)みたいなんをしていました。そして私は「部落ってどう思う？」って聞きました。「部落とかそんなん私は考えてないけど」と言いました。彼女とは前にも何回か部落のことの話は少ししています。彼女は転校(てんこう)少女で，

今まで行った学校に部落があったから部落のことは知っています。（今の学校にはないから部落の話し合いはしてないそうです）私は「もうここで言え！」って思って「私部落なんじょ」って言いました。するとその子は「たぶんそうと思っとった」って言いました。私が「なんで？」って聞いたら「今まで部落のこと少し話してきたけど，その時なんか暗くて，声のトーンが何か低い感じがしたから，そうでないかと思っとった」と言いました。私はそのこと知っとったのになんで聞かんかったのかと思って「どうして私に『部落？』って聞かんかったん？」て言ったら「あんたが話してくれるん待っとった。いつ私を信じてくれるかなって」と言いました。私は何か自分にがっかりしてしまった。そしたら「私は何にも変わらんよ。あんたはあんたやから。部落やそんなん今も気にしたって意味ないんちゃう。そんなことプラスにならんやろ」って言いました。私はすっごくうれしかった。私が「でも，あんたの親とかどう思うかな」って聞きました。私は，今までその子の家に泊まってその子の親ともすごく仲良くなったので，そのことも気がかりでした。そしたら「ちょっと待ってよ」って言って，その子がどっか行って，数分したらその子が「お母さんに言ったよ。母さんにかわる」って言って，その子の親にかわりました。私が何と言ってよいかわからんかって黙っとったら「○○ちゃんは普通やったでぇ。すごく元気で何にも変わらんし，これからも□□（その友達の名）と仲良くしてよ」って言ってくれた。すごくうれしかった。そして友達と少し話をして，電話を切った。私はその後，涙が出てきた。泣くんやすごい久しぶりだった。私は部落なんて気にしてない人おるんやって思ったら，差別をなくしたいっていう気持ちが湧いてきた。私は，□□や□□の母親のようになりたいって思った。私は今日，すっごい感動した。□□親子，ありがとう！

「こんなこともあるんだなぁ」という感じです。これからこの二人の関係が，今よりも深まり，またその周囲へも広がり，ともに反差別を実現していくような集団となることを，心から願いたいと思います。ともにがんばりましょう！